群教セ	G01 - 02
	平17.230集

作文の書き方支援教材「作文メモたろう」の作成と活用

特別研修員　　小林　信男　　（太田市立鳥之郷小学校）

《研究の概要》

本研究では、小学校国語科の「書くこと」の学習において作文の基本的な文章構成（はじめ・なか・おわり）の方法について学ぶことができる学習支援教材「作文メモたろう」を作成した。作成にあたっては、文章を構成する各部分の内容と役割が容易に理解できるように動画や静止画、アニメーションを取り入れた。本教材を活用することで、児童は基本的な文章構成の方法を理解し、筋の通った作文が書けるようになった。

キーワード　【国語－小　伝え合う力　書くこと　作文　文章構成　マルチメディア】

Ⅰ　主題設定の理由

小学校国語科では、これからの社会を生き抜いていくための重要な資質である「伝え合う力」の育成が求められている。その伝え合う力の育成に向けて、学習指導要領では、「書くこと」の第３学年及び第４学年の目標に「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現する態度を育てる。」とある。

本校３学年の児童はこれまでに、身の回りの出来事や体験したこと、空想や想像を膨らませたことなど、いろいろな内容の作文を書き、「簡単な組み立て」をもとに、順序よく書く大切さを学んできている。しかし、書きたいことの中心を明確に表現することができなかったり、段落ごとのまとまりを意識することができなかったりして、筋の通った作文を書けない児童が多い。また、作文に関するアンケートでは、児童の多くが「何を書いたらよいのか分からない」「書きたいことが多すぎて分からない」「書いていて意味が分からなくなってしまう」と答えている。

このようなことから、作文の基本的な文章構成（はじめ・なか・おわり）の方法をしっかりと身に付けさせ、それをもとに読み手に分かりやすい作文を書けるようにしていく必要がある。

そこで、作文の基本的な文章構成の方法について理解し、筋の通った作文を書けるようにするための作文の書き方支援教材「作文メモたろう」を作成することとした。本教材は、作文の基本的な構成（はじめ・なか・おわり）における各部分の内容と役割が容易に理解することができるように動画や静止画、アニメーションを取り入れる。また、「はじめ・なか・おわり」の各部分が内容ごとのまとまりとなっていることを意識できるように、各部分の要点と作文の文章とを対応して表示できるようにする。

本教材を「書くこと」の学習で繰り返し活用すれば、基本的な文章構成の方法を身に付け、筋の通った作文を書くことができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

小学校国語科「書くこと」の学習において、基本的な文章構成の方法について学べる作文の書き方支援教材「作文メモたろう」を作成し、活用することにより、筋の通った作文を書けるようにする有効性を、授業実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

作文の基本的な構成における各部分の内容と役割が容易に理解できるように動画や静止画、アニメーションを取り入れれば、作文の書き方支援教材「作文メモたろう」を作成できるであろう。そして、本教材を活用することで、基本的な文章構成の方法を理解すれば、筋の通った作文を書くことができるようになるであろう。

Ⅳ　研究の内容

1　作文の書き方支援教材「作文メモたろう」の概要

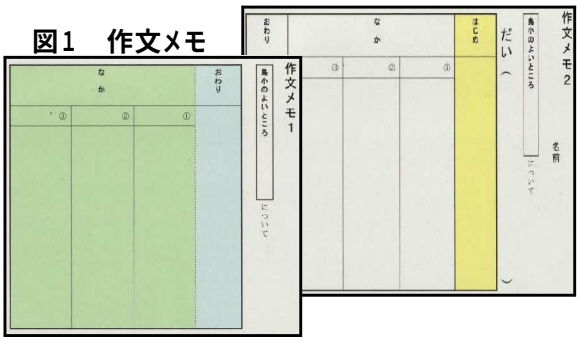
(1)　基本的な考え方

筋の通った作文とは、基本的な文章構成（はじめ・なか・おわり）で、一つの段落に一つの事柄や意見が述べられ、段落がそれぞれの役割に応じて並べてある文章である。

筋の通った作文が書けるようになるためには、筋道立てて書かれている説明文の基本的な文章構成（はじめ・なか・おわり）を手本として文章をつくる活動を繰り返すことが大切である。そして、文章構成を意識できるようにする必要がある。文章構成を意識するためには、作文の要点やその順番を表した「作文メモ」を使うと効果的である。

「作文メモ」とは、作文を書くときに、伝えたいことの中心（おわりの部分）を明確にすることで、根拠となる事柄（なかの部分）を挙げ、書く事柄の順序を考えながら文章構成することができるワークシート（図１）である。

図１　作文メモ



そこで、基本的な文章構成の方法について、動画や静止画、アニメーションを活用して「作文メモ」と関連させて目で見て分かるようにすると共に、説明だけでは理解が不十分な児童にも、その実態に応じた指導ができる、作文の書き方支援教材「作文メモたろう」をWeb形式で作成する。

(2)　教材作成上の工夫

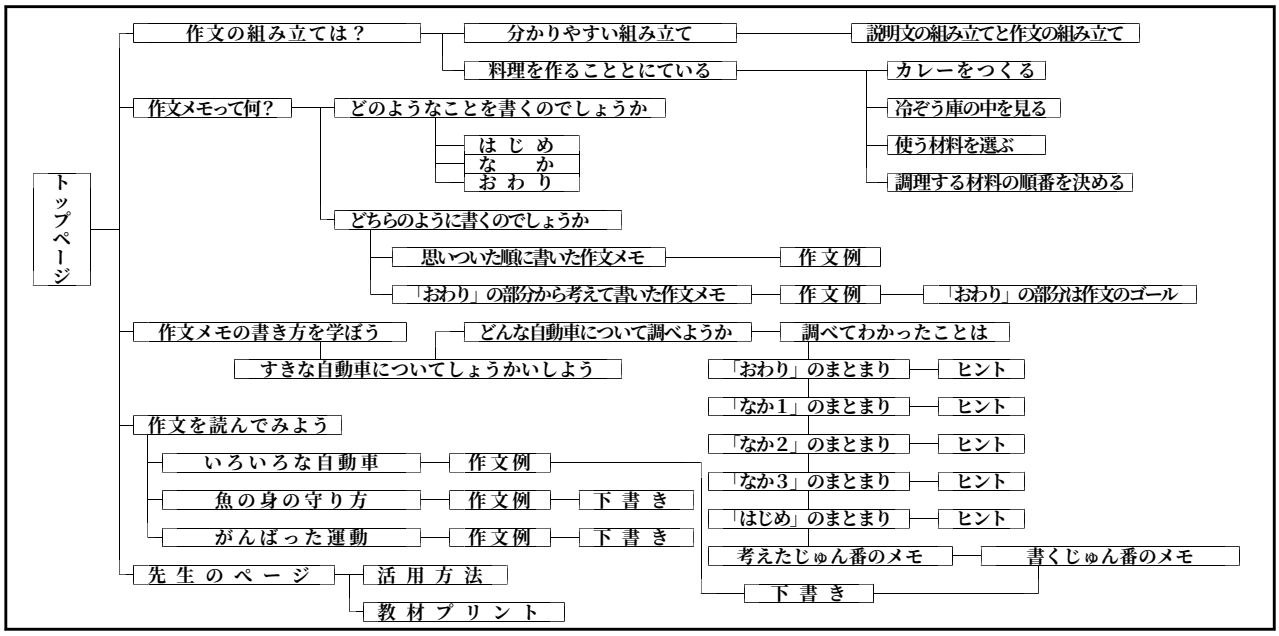
○　基本的な文章構成の方法を教師の説明だけでは十分に理解させることが難しいので、文章構成を「組み立て」として、作文を書く手順と具体的な順序のある作業とを対比したり動画や静止画、アニメーションを活用したりして、基本的な文章構成の各部分の役割やつながりについて分かりやすく表示できるようにする。

○　作文を書くときは「書く順序」と「考える順序」は違う、ということを理解できるようにするためにアニメーションを取り入れたりページを切り替えたりすることにより、伝えたいことの中心（おわりの部分）や根拠となる事柄（なかの部分）、大まかな内容（はじめの部分）を入れ替えて表示できるようにする。

○　「作文メモ」に書かれた事柄と作文に書かれた文章とが意味段落として、とらえやすいようにするために、「作文メモ」と「作文メモ」をもとにして書いた作文の「はじめ」「なか」「おわり」の各部分を黄系、緑系、青系の３色にすることにより、対応させながら表示できるようにする。

○　本教材の構成を以下の通りとする（図２）。

図２　作文の書き方支援教材「作文メモたろう」の構成図



2　作文の書き方支援教材「作文メモたろう」の内容

(1)　トップページ

起動すると、「作文の組み立ては？」「作文メモって何？」「作文メモの書き方を学ぼう」「作文メモで書いた作文を読んでみよう」「先生のページ」の五つの項目が表示され（図３）、それぞれの項目をクリックすると各ページへ移動できる。

「先生のページ」は、この教材に対応した「作文メモ」などの教材がPDFで表示されるので、簡単に印刷をすることもできる。

(2)　「作文の組み立ては？」のページ

「作文の組み立ては？」をクリックすると、「分かりやすい組み立て」「料理を作ることとにている」の二つの項目が表示される。

「分かりやすい組み立て」を選択すると、今まで学習してきた説明文の基本的な組み立て（はじめ・なか・おわり）表が表示される。「次へ」をクリックすると、説明文の組み立て表の下に作文の基本的な組み立て表がアニメーションで表示される（図４）。説明文と作文の組み立てを比べることで、同じ組み立てになっていることに気付くことができる。

「料理を作ることとにている」を選択すると、料理を作る手順と作文を書く手順とを対応させた一覧表が表示される（図５）。その表の縦の項目は「作業の組み立てを考える」と「作業を実行する」に大別される。「作業の組み立てを考える」・「料理を作る」の各過程をクリックすると、その動画が表示される。動画の内容は、材料集めや材料の精選などの具体的な作業の様子であり、料理（おいしいカレー）を作ることと作文（読み手に分かりやすい作文）を書くことが似ていることに気付くことができる。

(3)　「作文メモって何？」のページ

「作文メモって何？」をクリックすると、「どのようなことを書くのでしょうか」と「どちらのように書くのでしょうか」の二つの項目が表示される。「どのようなことを書くのでしょうか」を選択すると、「作文メモ」が表示される。その「作文メモ」の中にある「はじめ」「なか」「おわり」の各部分をクリックすると、それぞれのまとまりに書く内容や具体例などについて動画で説明が表示される（図６）。「どちらのように書くのでしょうか」を選択すると、読み手に分かりやすい作文を書くために、「作文メモ」を思いついた順に

図３　トップページ

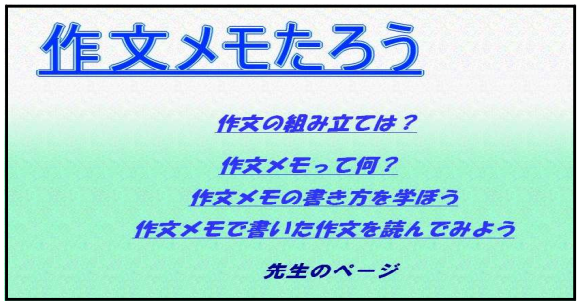


図４　説明文の組み立てと作文の組み立て

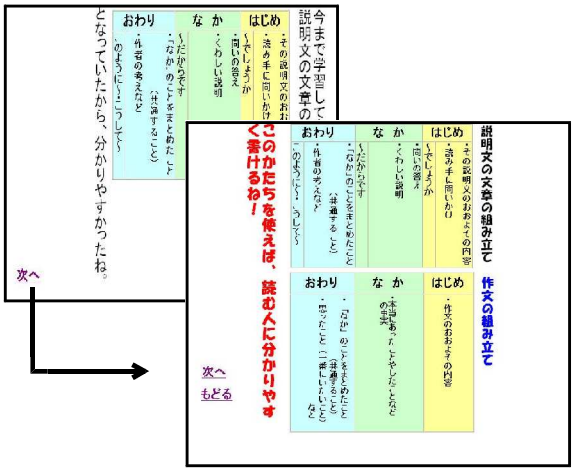
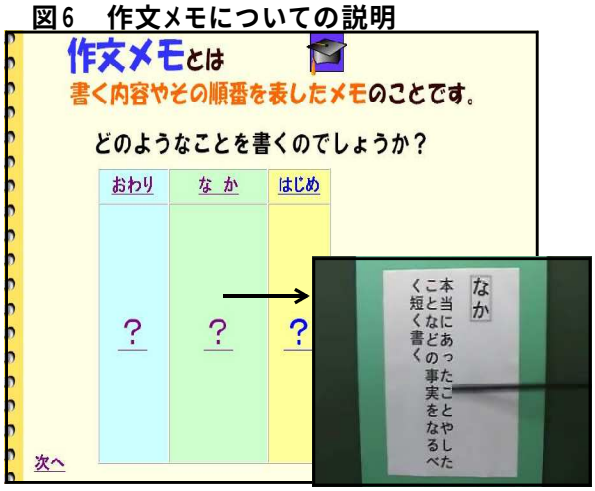


図５　料理を作ることとにている

図６　作文メモについての説明



書くのか、おわりの部分から考えて書くのかを考えるページに移動する。そして、思いついた順に書いた「作文メモ」とおわりの部分から考えて書いた「作文メモ」による作文を比較することにより、おわりの部分から書いた作文の方が、筋が通っていて読み手に分かりやすい作文になっていることに気付くことができる。「おわりの部分は作文のゴール」のページに移動すると、おわりの部分を明確にすることの大切さが分かるように、アニメーションを取り入れた画面が表示される（図７）。

(4)　「作文メモの書き方を学ぼう」のページ

「作文メモの書き方を学ぼう」をクリックすると、「すきな自動車についてしょうかいしよう」のページに移動する。このページ以降は、調べた事柄をもとに「作文メモ」を書くための具体的な方法が表示される。

まず「どんな自動車について調べようか」のページでは、様々な種類の自動車の絵が表示され、その中から伝えたいと考えた自動車が３台、自動的に選択される。

次に「調べて分かったことは」のページ（図８）では、各自動車の絵をクリックすると、その自動車についての動画や静止画が表示され、書こうとしている自動車についての調べ活動の疑似体験ができる。

最後に、「作文メモ」に書く内容を考えるページに移ると、調べたことをもとに作文メモの「はじめ」「なか」「おわり」の各部分にどのようなことを書くのかが理解できるよう、三択問題が表示される（図９）。また、誤答するとそのわけが表示されたり、ヒントのボタンをクリックするとヒントが表示されたりする。このように三択問題に解答しながら「作文メモ」に書く内容や順番を考える活動ができる。

(5)　「作文を読んでみよう」のページ

トップページから「書いた作文を読んでみよう」をクリックすると、「いろいろな自動車」「魚の身の守り方」「がんばった運動会」の作文の題名が表示される。各題名をクリックすると、その作文例と下書きが表示される。下書きは、「はじめ」「なか」「おわり」の部分がそれぞれ色分けされており、その部分をクリックすると対応した「作文メモ」が表示される。例えば、「なか」の部分をクリックすると、それに対応した「作文メモ」が表示される（図10）。

図７　「おわり」の部分は作文のゴール

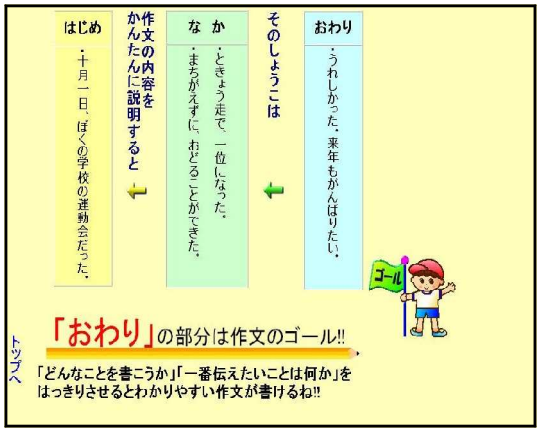


図８　調べてわかったことは

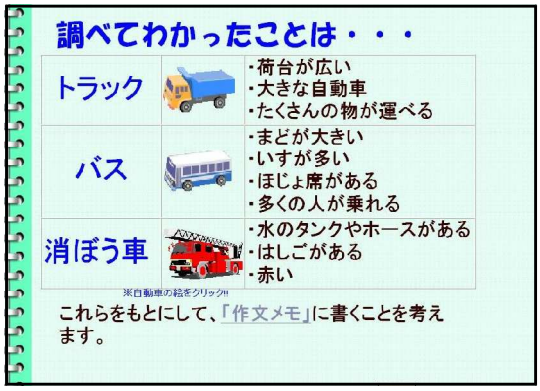


図９　「おわり」の部分の３択問題

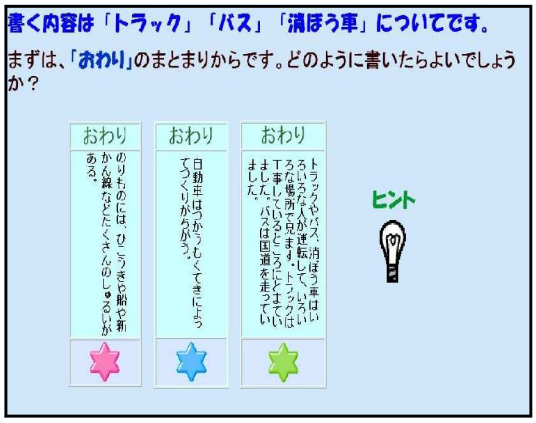
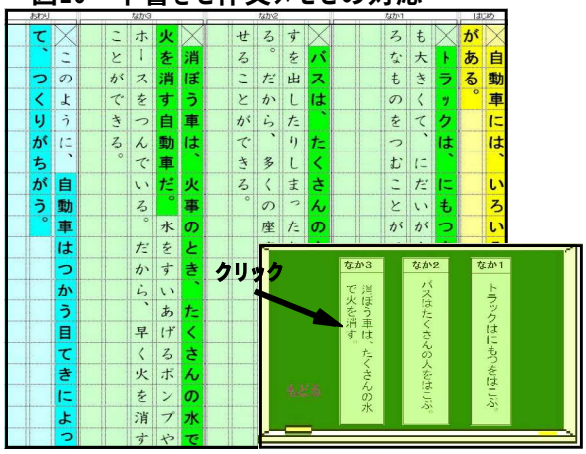


図10　下書きと作文メモとの対応



Ⅴ　実践の結果と考察

1　授業実践計画

○　対　象　　太田市立鳥之郷小学校　第３学年

○　単元名　　まとまりやつながりに気をつけよう　「鳥小の自まんしたいことを伝えよう」

○　単元の目標　　まとまりや事柄の順序を考えながら文と文の続き方に注意しながら説明文を書くことができる。

2　授業実践

○　単元計画　全９時間　（太字ゴシック体は本教材を活用する場面）

時	主な学習活動	教師の支援
1	○これから学習する内容についての説明を聞く。 ○作文例の文章の組み立てについて考える。	・これからの学習に意欲がもてるように、本校の自慢できることについて、家の人や身近な人に伝えることを想定した説明文を書くという学習の流れを伝える。 ・文章組み立て表に記入させることにより、作文例「いろいろな自動車」が三つのまとまり（はじめ・なか・おわり）から構成されていることが分かるようにする。
2	○どんなことを伝えたいか考える。	・本校の自慢したいことを羅列させることにより、最も書きたいことが具体化できるようにする。
3	○伝えたいことの根拠となる材料となる資料を集める。	・実際に見に行かせたりインタビューをさせたりすることにより、書きたい事柄の材料を集められるようにする。
4 **本時**	**○基本的な文章構成の方法について知る。** **○「作文メモ」の書き方について考える。**	・作文メモと関連させて基本的な文章構成の方法を理解させるために、「作文メモたろう」をプロジェクタでスクリーンに映しながら、教師との対話や話し合いをさせる。 ・支援を要する児童には「作文メモたろう」で作文メモの書き方をもう一度見せて具体例をもとに考えさせる。
5	○作文の組み立てを考えるために必要な事柄を作文メモを書く。	・作文メモの「はじめ」「なか」「おわり」の三つのまとまりにはそれぞれ違う事柄を書くということを意識させるために、まとまりごとに色を変える。 **・支援を要する児童には、「作文メモたろう」で再度確認をさせる。** ・作文メモをもとに文章構成をさせる。
6 ・ 7 ・ 8	○作文メモをもとに作文を書く。 ○書き上がった作文を推敲する。 ○作文を清書する。	・「はじめ」「なか」「おわり」の三つのまとまりにはそれぞれ違う事柄を書くということを意識させるために、まとまりごとに色の違う用紙に書かせる。 ・微音読させたり、推敲の観点を示したカードを活用させたりして、自分の書いた下書きの作文をの見直しができるようにする。 ・推敲した作文を清書用の用紙に丁寧に書かせる。
9	○前時に書いた作文を読み合う。	・読み合うための観点を示すことにより、友達の作文のよさに気付けるようにする。

○　日　時　　11月2日（水）　３校時　３年教室

○　本時のねらい　　説明文の文章構成と作文メモに書いてある事柄との関連から、基本的な文章構成の方法が分かる。

○　準　備　　作文の書き方支援教材「作文メモたろう」（教師用コンピュータにインストール）、プロジェクタ、スクリーン、ノート型コンピュータ、ワークシート

○　展　開

時間	児童の学習活動	教師の支援 （●は、おおむね満足に達していない児童への支援）	具体の評価規準 （評価方法）
5	1. 前時に学習した説明文の組み立てについて確認をする。 2. 本時のめあてをつかむ。 作文メモから作文の組み立て方について考えよう	・「いろいろな自動車」を音読させる。 ・集めた材料を使って、作文が上手に書けるようになる方法について学習することを伝える。	
30	3. 作文メモの概要について知る。 4. 作文メモのよさや書き方について考える。 5. 作文メモと関連させて文章構成の方法について考える。	・作文メモのあらましや書き方について理解させるために、プロジェクタでスクリーンに映すことにより、視覚的にとらえさせながら教師との対話や話し合いができるようにする。 ・作文メモの書き方についての三択問題を解かせ、映っている画面を解説しながら答え合わせをさせる。 ・段落のまとまりを意識せるために、段落ごとに色が違うことから気付けるようにする。 ・作文のどの部分が、作文メモのどの部分に対応しているか確かめることにより、文章構成の方法について気付けるようにする。 ・ワークシートに作文メモについて、分かったことや気付いたことなどを書かせる。 ●「作文メモたろう」の作文メモの書き方についての具体例をもう一度見せることにより、作文メモを書くときの注意点について考えることができるようにする。	［関心・意欲］ 【おおむね満足】 作文メモの意味や書き方について画面を見ながら考えている。 （観察・発言） ［書くこと］ 【おおむね満足】 作文メモの意味や書き方から、文章構成の方法について分かったことや気付いたことをワークシートに書いている。（観察・記述）
5	6. 作文メモと作文を対応させて、分かったことや気付いたことなどを発表する。	・作文メモの内容のまとまりが既習した説明文の文章構成と同じになっていることを確認する。	
5	7. 自己評価をして本時の学習を振り返る。	・本時の学習のめあてに沿った自己評価をさせるために、自己評価の視点を示し、自己評価カードに書けるようにする。	

3　結果と考察

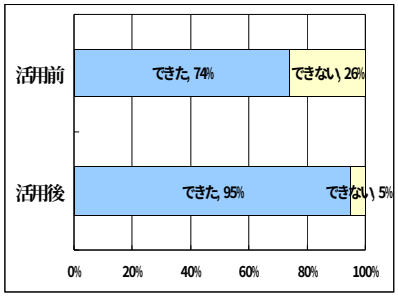
本時では、本教材を活用し、「作文メモ」の概要について「はじめ・なか・おわり」の部分に書く内容や具体例を動画で表示した。そして、「作文メモ」で書かれた作文例を表示すると、「分かりやすい作文になっている。」「作文が流れているみたい。」などの声があがった。

また、「作文メモ」の書き方をもとに文章構成の方法について理解させるために、三択問題や作文と作文メモが対応しているところをスクリーンに映し、考えさせた。多くの児童は「やったあ。正解だ。」と声を上げながら楽しそうに取り組んでいた（図11）。授業全体を通して、ほとんどの児童が画面に集中し、文章構成の方法を学ぼうと意欲的に取り組んでいた。ワークシートには、「画面に動きがあるので、作文メモの書き方が分かりやすかった。」「作文も説明文と同じように組み立てられている。」と書いていた。授業後の本教材についてのアンケートによると、多くの児童が「作文の組み立て方が分かった。」「作文のはじめ・なか・おわりにどのようなことを書くのかが分かった。」と答えた。そして、本教材活用後、89%の児童は自力で「作文メモ」を書き、文章構成を意識するようになった。このことから、児童は基本的な文章構成の方法を理解することができたと考えられる。

図11　本時の様子

本教材を活用して書いた「私たちの学校で自慢できること」の作文と以前書かせた「運動会について心に残ったこと」を比較したところ、「伝えたいことの中心を明確できた児童」（図12）が95%、「段落ごとのまとまりに分けて書いた児童」（図13）が91%とそれぞれが増えたことから、児童は筋の通った作文が書けるようになったと考えられる。

図12　伝えたいことの明確化



本教材の活用前、A君の書いた作文は思いついたことを羅列しただけであった。ところが、本教材を活用して、実際に「作文メモ」を書かせると、「おわり」の部分に「自然がいっぱいあって楽しい」と書き、作文で伝えたいことを明確にし、「はじめ」や「なか」の部分についても自分の力で考えることができた。その後、作文を書かせたところ、わずか15分で書き終えてしまった（図14）。また、書かれた作文は基本的な文章構成になっており、筋の通った作文であった。A君は、「すらすら書けたので、作文が好きになった。」と言っていた。これは、作文の書き方が分かり、書く意欲が高まったからであると思われる。

図13　段落ごとのまとまり

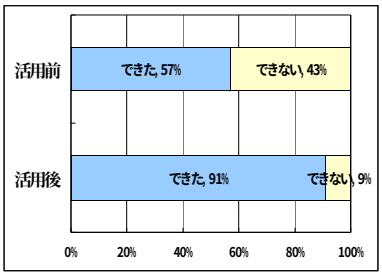


図14　A君の書いた作文

Ⅵ　研究のまとめと今後の課題

本研究を通して、児童は作文の基本的な文章構成における各部分の内容と役割について理解することができるようになった。そして、基本的な文章構成の方法を理解し、筋の通った作文が書けるようになったと考える。

今後の課題としては、作文例など活字の多い画面があるために、理解に時間がかかる児童もいたことから、さらに動画や静止画、アニメーションを取り入れるなどして、分かりやすい画面になるような工夫をしていく必要がある。

〈参考・引用文献〉
・浜松市立広沢小学校　著　市毛勝雄　監修
『論理的思考力を育てる授業』明治図書（2003）

（担当指導主事　齋藤　俊明）